

片山恭一著「森有正、環っていく場所」NHK知る楽 2009年8-9月こだわり人物伝テキスト、
日本放送出版協会 2009年8月1日刊を読む

孤独

1. 敗戦の年、森有正は三十四歳でした。つまり多くの国民が、自らの魂を「国体」にあずけた時代を、大人目で見えてきたこととなります。それは重い体験として、彼が書いた文章のなかに通奏低音のように響いています。そこから思索がはじまったと言ってもいいくらいなのです。だからこそ、森は人間の根源に「孤独」と置いたのだと思います。それを情緒や感傷とすりかえてはならない。なぜなら情緒や感傷としての孤独は、容易に国家や社会のなかへ、あるいは歴史や伝統のなかへ回収されてしまうからだ。人間が本来宿している孤独はどこへも回収されない。どこへも回収されないからこそ、「根源的」なのだ。どこかへ回収されるとすれば、それは自分のなかでしかない。
2. 森にとって、「孤独」という概念は非常に大切なものです。それは自由で独立した「自己」を保証するものです。一人一人の人間のなかには、いかなる他者や社会の介入も許さない領域がある。こうした領域のことを、ぼくたちは「死」という比喻によって、ある程度は知っています。そこから出発しなければならない、と森は言います。正しく出発するために、情緒や感傷としての孤独は癒した方がいいし、また癒すことができる。では、保持されなければならない根源的孤独は、どこへ向かうのでしょうか。人間の方へ、「人間が人間になること」の方へ向かうのです。 P104 ~ 105

人為の及ばない「聖なる時間」

1. こうした時間の作用について、森有正という人はとても自覚的だったように思います。実際に、ずいぶん時間をかける人であったようです。『マルテの手記』を読むのに九年かかった、といった記述がエッセーのなかに出てきます。同じようにして、プーレストやハイデガーを読んでいく。時間をかけて綿密に読む、というのが森の読書のスタイルであったようです。
2. 今の僕のパリで始まっている生活をちょっと書こう。
 - (1) 朝のめざまし時計で五時半に起床し、すぐ洗面をして、コーヒーをわかして、パンと一緒にとる。
 - (2) それから八時半まで、かせぐための東洋医学の仏訳をし、それを終わるとすぐ外出し、前のカフェ・ギマールで三十フランのカフェ・オーレーをもう一度飲む。
 - (3) サン・ジャックとゲーリュサックの角か、リュクサンブールの駅前から、二一か二七か、八一

のバスに乗って、パレ・ロワイヤルで降り、リシュリユー街を歩いて、ビブリオテーク・ナショナルに入る。

(4)そして夕方の六時まで仕事(デカルト研究)をする。

(5)食事は、近所の小さいカフェで、サンドウィッチとコーヒーとですませ、時には自分で作って行って、席で食べてしまう。

(6)ソルボンヌ、コレージュ・ド・フランスの講義、コレージュ・フィロゾフィックの講演をきくために、ビブリオテークを出る以外は、いつも、ビブリオテークの机で仕事(研究)をする。

(7)午後六時に研究が終ると、またバスに乗ってカルティエ・ラタンに戻り、安いレストランに入るか自分の部屋で自炊する。

(8)それから十時半か十一時になるまでは自由な時間で、日本の新聞雑誌に出すものを書いたり、手紙を書いたり、好きな本を読んだりする。

(9)その他一週に一度アンスティテュ・パンテオンに仏作文の稽古と、一カ月に二回、ジャコブ街のM夫人(ワール教授の知合い)のところへハイデッガーをドイツ語で読みに通う。

(10)以上の仕事の日課は月曜から金曜までの五日間で、土・日は完全に休み、自由に時間を使う。

(11)僕はこのシステムを今後少なくとも四、五年間、推しすすめてゆかなければならない。(『バイビロンの流れのほとりにて』 091)

2. かなり切り詰めた、ストイックな学研生活を送っていたことがうかがえます。一日を計画で埋め尽くして余白を残さない、怠惰に過ぐす時間を自分に許さない。そういう生活スタイルに見えます。ちょっと修道士や僧侶などの暮らしぶりを思わせますね。彼らの一日も規律やお勤めで埋め尽くされているようです。そうして雑念の紛れ込む余地を残さない。雑念とは、言い換えれば、主観とか自我とかいったことになるかと思います。それらは信仰の妨げになる、ということで、いかにおのれを殺すかということが、宗教的な修行の眼目になってくるのでしょう。 P125 ~ 126

[コメント]

今夜から始まったNHK教育TVでの4回シリーズの片山恭一氏による「森有正」論のテキスト。先月、河原町のジュンク堂で買い求め、その日のうちに読み切った佐古純一郎先生の「森有正日記」に触れたばかりなので、以前は毎日、森先生の本ばかり読んでいた私はとてもなつかしい気持ちでした。

- 2009年9月3日林明夫記 -